

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第 **109** 号

2019年 4・5・6月



◎地藏菩薩立像 快慶作 (大阪 藤田美術館)

特別展

国宝の殿堂
藤田美術館展
曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき
4月13日(土)～6月9日(日)
東・西新館

わくわくびじゅつギャラリー

いのりの世界のどうぶつえん
7月13日(土)～9月8日(日) 東新館

特別陳列

法徳寺の仏像
ー近代を旅した仏たちー
7月13日(土)～9月8日(日) 西新館

名品展

珠玉の仏たち
通期開催
なら仏像館

中国古代青銅器
通期開催
青銅器館

特別展

国宝の殿堂 藤田美術館展

曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき

4月13日(土)～6月9日(日)

大阪市の中心部にある藤田美術館は、国宝九件、重要文化財五十三件を含む世界屈指の日本・東洋美術のコレクションを所蔵する美術館です。約二千件におよぶコレクションは、茶道具、墨蹟、水墨画、能装束、絵巻、仏像、仏画、仏教工芸、経典、考古資料などにわたります。本展覧会は、藤田美術館が所蔵する曜変天目茶碗をはじめとする国宝・重要文化財の名品を紹介しつつ、同館所蔵の仏教美術に焦点をあてたものです。コレクションには奈良にゆかりのある仏教美術が数多く含まれており、奈良の地での開催にふさわしい展観となっております。



◎埴製枕



●仏功徳蒔絵経箱（展示期間：4月13日～5月12日）



◎法華経巻第六残闕（扇面写経）（展示期間：5月14日～6月9日）



●曜変天目茶碗



◎紫式部日記絵詞 部分（展示期間：5月14日～6月9日）

〈いずれも大阪 藤田美術館所蔵〉

わくわくびじゅつギャラリー

いのりの世界のどづぶづえん

7月13日(土)～9月8日(日)

古来、日本の人々が生み出す造形に、動物は盛んにあらわされてきました。本展では、動物や想像上のいきものが表現された仏教美術を一堂に集め、彼らが仏や神の住まう世界に登場する秘密に迫ります。また、仏教美術が本格的に生み出される以前の、人々の祈りに関わる動物造形もあわせて紹介します。お子様から海外よりお越しの方まで、幅広く日本の美術を楽しんでいただくための本企画、どうぞご期待ください。



獅子(当館)



牛玉像(京都 海住山寺)



龍頭(当館)

特別陳列

法徳寺の仏像

―近代を旅した仏たち―

7月13日(土)～9月8日(日)

法徳寺は奈良市十輪院町に位置する融通念仏宗の寺院です。この寺に近年寄進された約三十軀の仏像群は、個性豊かな像を多く含みますが、基礎的な情報のもとより、その存在自体もほとんど知られていない、南都ゆかりの知られざる仏たちです。本展では奈良の地に帰ってきたこれら諸像を広く紹介するとともに、X線CTスキャン調査をはじめとした最新の調査成果もふまえて、その魅力に迫ります。



観音菩薩立像



文殊菩薩坐像



地蔵菩薩立像
〈いずれも奈良 法徳寺所蔵〉

韓国・国立博物館の事例から考える 作品解説の多言語化について

当館学芸部研究員

朴 スベシヨ
株 顯

奈良国立博物館を含め各地の四カ所の国立博物館は、二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピック開催により来日する多くの外国人来場者に対応するため、既存の日本語、英語以外にも中国語、韓国語の解説を取り入れる事業を二〇一七年七月から本格的に実施し始めた。その事業に関連して、当館の学術交流プログラムを利用し、韓国の博物館における多言語対応の現況を把握するために約一カ月間、韓国に訪問する機会を得た。韓国国内にある九カ所の国立博物館と、八カ所の市立博物館、二カ所の私立博物館を調査してきたので、この場を借りて、韓国の博物館における作品解説の多言語化の現況について報告し、その感想を述べてみたい。

その前に当館の現状を確認すると、平常展に相当するなら仏像館名品展の場合、挨拶文と各章を説明する文章、作品の基本情報（作品名・作者・素材・所蔵者）を日本語・英語・中国語・韓国語の順に四カ国語で表記しており、作品の解説もおおよそ半分以上を四カ国語で表記している。一方、韓国の国立博物館の常設展の場合、挨拶文と各章を説明する文章は日本語と同じく四カ国語で表記しているが、作品の基本情報はハンゲル・漢字・英語の順に表記し、作品の解説はほとんど韓国語のみである。また、韓国の外国語表記の内容は明らかに原文より少なく、原文をそのまま翻訳していないものが多い。このように作品の基本情報と解説を四カ国語で表記している数が多い点と、原文を忠実に翻訳している点からみると、当館の方が、多言語化が進んでいるとも言える。

しかし、解説文の外国語表記を短くしている点に関しては、韓国の国立博物館の場合、翻訳用の原稿を別に用意しており、意図的に短くしているという。すなわち、外国人にあまりにも細かい情報を提供すると、その分難しくなり、作品に集中できないからだという。私も実際にこのような経験があるため、この意見に賛成できる部分がある。

ある。日本人のように日本の歴史の基礎知識がない人の場合、日本人向けに詳しく書かれたものを、翻訳されたもので読んだとしても、その内容が明確に伝わらないことが多く、見慣れない固有名詞などを読むことに必死で、作品の鑑賞に集中できなくなることもある。博物館では「目の前にある本物を見る」という行為も大事なのに、それを邪魔してしまう。とはいえ、作品の情報や解説が全くないと、この作品が一体どのようなものであり、なぜ重要であるのかが分からないため、興味をもたなくなる。つまり、作品解説はその作品の鑑賞に欠かせない情報を入れることが大事で、外国人にとって重要ではない情報は削ったり、逆に興味をもちそうな情報を入れたりして、翻訳の前に原稿の再構成が必要であると思われる。

このように作品解説に関する問題以外にも当館は、多言語対応の範囲、IT技術の導入、人材の育成など、多言語対応に関する様々な問題点とその解決策を考え、改善していく最中である。二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピック開催まで約一年半しか残されていないが、多言語対応事業を通じて、日本の文化を世界に発信する絶好の機会を存分に活用したいと思う。



4月13日(土)から開催する「国宝の殿堂 藤田美術館展—曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき—」のチラシ。外国人の来場者をよりわかりやすい内容で引きつけるため、中国語と韓国語の表記は日本語のタイトルとは別に考え、「国宝の殿堂 藤田美術館展—宋代の遺産・曜変天目茶碗と日本の仏教美術—」としている。

出陳一覧

名品展

珠玉の仏たち

なら仏像館

4月16日(火)～

彫刻

〔第1室〕

- 如来立像 当館
- 蔵王権現立像 当館
- 如来立像 当館
- 地藏菩薩立像 当館
- 毘沙門天立像 当館
- 狛犬 当館

〔第2室〕

- 舞楽面 胡徳楽 手向山八幡宮
- 舞楽面 散手 手向山八幡宮
- 薬師如来坐像 当館
- 十一面観音菩薩立像 松尾寺
- 観音菩薩立像 文化庁

〔第3室〕

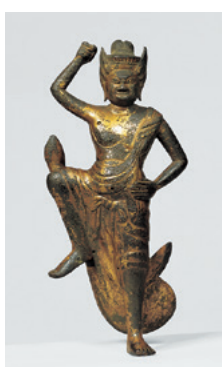
- 宝冠阿弥陀如来坐像 安楽寿院
- 阿弥陀如来坐像 当館
- 阿弥陀如来坐像 金剛寺
- 阿弥陀如来立像 当館
- 阿弥陀如来立像 個人
- 阿弥陀如来立像 個人

〔第4室〕

- 毘沙門天立像 如法寺
- 菩薩坐像 観音寺
- 菩薩立像 金竜寺
- 虚空蔵菩薩坐像 文化庁
- 文殊菩薩坐像 薬師寺

〔第5室〕

- 誕生釈迦仏立像 正眼寺
- 誕生釈迦仏立像 個人
- 誕生釈迦仏立像 当館
- 誕生釈迦仏立像 当館
- 如来立像 当館
- 菩薩立像 法起寺
- 菩薩立像 興福院
- 菩薩半跏像 神野寺
- 観音菩薩立像 法隆寺
- 観音菩薩立像 観心寺
- 観音菩薩立像 金剛寺
- 如来坐像 当館
- 誕生釈迦仏立像 個人
- 二仏並坐像 当館
- 菩薩立像 個人
- 十一面観音菩薩立像 個人
- 力士立像 個人
- 如来立像 光明寺
- 如来立像 当館
- 釈迦如来坐像 園城寺
- 蔵王権現立像 当館



○蔵王権現立像 当館

〔第6室〕

- 阿弥陀如来立像(裸形) 浄土寺
- 阿弥陀如来立像 興福寺
- 多聞天立像 当館
- 如来三尊像 当館
- 如来三尊像 個人

如来立像

- 十一面観音菩薩立像 当館
- 如意輪観音菩薩坐像 薬師寺
- 吉祥天立像 当館
- 阿弥陀如来坐像 法明寺
- 阿弥陀如来坐像 歎喜寺
- 阿弥陀如来坐像 西大寺
- 阿彌如来坐像 西大寺
- 阿彌如来坐像 西大寺

〔第7室〕

- 観音菩薩立像 観心寺
- 観音菩薩立像 当館
- 二月堂本尊光背 東大寺
- 十一面観音菩薩立像 勝林寺
- 十一面観音菩薩立像 新薬師寺
- 十一面観音菩薩立像 当館
- 十一面観音菩薩立像 薬師寺
- 千手観音菩薩立像 園城寺

〔第8室〕

- 宝冠阿弥陀如来坐像 當麻寺
- 大日如来坐像 十市町自治会
- 梵天立像 秋篠寺
- 救脱菩薩立像 秋篠寺
- 天部形立像 兵庫県
- 天部形立像 十市町自治会

〔第9室〕

- 龍猛菩薩立像 泰雲院
- 地藏菩薩立像 十市町自治会
- 明星菩薩立像 弘仁寺
- 地藏菩薩立像 大福寺
- 地藏菩薩立像 新薬師寺
- 准胝観音菩薩立像 文化庁

〔第10室〕

- 不動明王立像 正智院
- 馬頭観音菩薩立像 浄瑠璃寺
- 不動明王坐像 正寿院
- 尼藍婆・毘藍婆坐像 西南院

〔第11室〕

- 閻魔王坐像 金剛山寺
- 伽藍神立像 当館
- 地藏菩薩立像 長谷寺
- 四天王立像 靈山寺
- 大將軍神坐像 大將軍八神社
- 善導大師坐像 念佛院
- 聖徳太子立像 成福寺
- 僧形神坐像 当館
- 女神坐像 当館
- 童子形坐像 当館

〔第12室〕

- 阿弥陀如来立像(善光寺式) 善光寺
- 如来立像 個人
- 毘沙門天立像 高尾地藏堂
- 十二神将立像(辰・未神) 室生寺

〔第13室〕

- 如来倚像(押出仏) 当館

観音菩薩立像(押出仏)

- 如意輪観音菩薩坐像 当館
- 地藏菩薩立像 当館
- 僧形立像 当館
- 十一面観音菩薩立像 当館
- 十一面観音菩薩立像 当館
- 蔵王権現立像 大峯山寺
- 破損仏像残欠コレクション 当館

名品展

中国古代青銅器 坂本コレクション

青銅器館

中国古代の商(殷)から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。

※●＝国宝、◎＝重要文化財
※展示品は都合により一部変更する場合があります。

◆キャンパスメンバーズ

平成31年3月31日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

大阪大学・大阪大学歯学部附属歯科技工士学校、大阪大谷大学、関西学院大学・聖和短期大学・関西学院高等部・関西学院千里国際高等部・関西学院大阪インターナショナル、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都教育大学・京都教育大学附属高等学校、京都工芸繊維大学、京都女子大学・京都女子高等学校、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学、四天王寺大学人文・社会学部、就実大学人文学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良学園大学・奈良文化女子短期大学部・奈良文化高等学校・奈良学園高等学校・奈良学園登美ヶ丘高等学校、奈良教育大学、奈良工業高等専門学校、奈良佐保短期大学、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学

(以上、五十音順)

❖ イベント情報 ❖

■改元記念講演会

「ようこそ新元号！ ～これまでの奈良博と、これからの奈良博～」

改元という節目に合わせ、2部構成の講演会を行います。

【日 時】 4月30日(火・祝)

【場 所】 当館講堂

□1部(13:30～14:40)

「笑い飯 哲夫のおもしろ仏教講座」

当館文化大使 笑い飯 哲夫氏

□2部(15:30～16:40)

「仏教美術と正倉院宝物」 当館館長 松本 伸之

【参加費】 無料(展覧会観覧券等の提示は不要)

【定 員】 各回190名

※当館ホームページよりお申込みください。

※先着順で定員に達し次第締め切ります。

❖ 特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展」関連イベント ❖

■親子ワークショップ「オリジナル絵巻を作ろう」

キットを使って実際に絵巻作りを体験しながら、藤田美術館所蔵の名品「国宝 玄奘三蔵絵」や、絵巻について学ぶ親子向けワークショップです。出来上がった作品はお持ち帰りいただけます。

【日 時】 5月5日(日・祝)

①10:00～12:00 ②13:30～15:30

【会 場】 当館地下回廊

【講 師】 当館学芸部情報サービス室長 岩井 共二

【対 象】 小・中学生(保護者同伴)

【定 員】 各回18組

■親子向け抹茶体験ワークショップ

簡単な茶道具を使って抹茶を点て、季節の和菓子と一緒に楽しめます。茶道未経験の方でも気軽に体験できる、解説付きのワークショップです。当館庭園にある茶室(八窓庵)の特別見学もできます。

【日 時】 5月19日(日)

①10:30～12:00 ②13:30～15:00

【会 場】 当館地下回廊 及び 茶室

【監修・講師】 茶論 奈良町店

【協 力】 奈良女子大学茶道部

【対 象】 小学3年生以上(保護者同伴)

【定 員】 各回13組

■親子ワークショップ

「曜変天目茶碗モチーフのアクセサリー作り」

UVレジン(樹脂)を使って、本展覧会で展示される「国宝 曜変天目茶碗」をイメージしたアクセサリーを作る親子向けワークショップです。出来上がった作品はお持ち帰りいただけます。

【日 時】 5月26日(日)

①11:00～12:00 ②14:00～15:00

【会 場】 当館会議室

【講 師】 さえぐさなつこ氏(レジン作家)

【対 象】 小・中学生(保護者同伴)

【定 員】 各回18組

上記イベントは、当館ホームページよりお申込みください。

※先着順で定員に達し次第締め切ります。

※いずれも参加費は無料(ただし保護者の方については、藤田美術館展の観覧券もしくはその半券、奈良博プレミアムカード等のご提示が必要です)

※詳しくは、ホームページの「催し物」をご覧ください。

❖ 特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展」公開講座 ❖

4月20日(土) 「藤田傳三郎と藤田美術館展 伝統と未来」

藤田 清氏(藤田美術館 館長)

5月11日(土) 「国宝 曜変天目茶碗の謎にせまる」

小林 仁氏(大阪市立東洋陶磁美術館学芸課長代理)

5月25日(土) 「藤田美術館の仏教美術コレクション」

岩井 共二(当館学芸部情報サービス室長)

【時 間】 各回とも13:30～15:00(13:00開場)

【会 場】 当館講堂

【定 員】 各回194名(先着順)

※聴講無料(聴講には入場整理券が必要です)

※当日12:00から講堂前にて入場整理券を配布します(お1人様につき1枚)。

※入場整理券の受取の際には、本展の観覧券もしくはその半券、奈良博プレミアムカード等をご提示ください。

※入場受付は講座開始後30分で終了いたします。

もっと知りたい!奈良博の魅力

春の庭園を散策しませんか



当館の隠れた名所、茶室「八窓庵」^{はっそうあん}をとりまく庭園を散策しませんか? 春の庭園と茶室の魅力を当館ボランティアがご案内いたします。(雨天や庭のコンディションが悪く入園できない場合は西新館ピロティからのご案内となります。)

【日 程】 4月14日(日)、4月21日(日)、5月12日(日)

【案内時間】 各日13時～16時

【料 金】 無料(ただし、当日の特別展入館者の方に限ります)

※事前の申し込みは不要です。(直接、西新館1階のピロティへお越しください)

※詳しくは、当館ホームページをご覧ください。

◆奈良国立博物館賛助会

平成31年3月31日現在、特別支援会員4団体、特別会員4団体、一般会員(団体)17団体、一般会員(個人)67名のご入会をいただいております。

〔特別支援会員〕 (株)読売新聞大阪本社、結の会、(株)葉風泰夢、桃谷樓

〔特別会員〕 (株)奥村組西日本支社、(株)朝日新聞社、(株)ライブアートブックス、(株)ゴードー

〔団体会員〕 日本通運(株)関西美術品支店、(株)尾田組、(株)伏見工芸、(株)木下家具製作所、(株)天理時報社、(株)きんでん奈良支店、ノブレスグループ、奈良信用金庫、ひかり装飾(株)、校倉な会、(株)南都銀行、小山(株)、医療法人社団成風会、金剛(株)、(株)グラスパウハーゲンジャパン、(有)志津香、茶道裏千家淡交会奈良支部

〔個人会員(新規)〕 坂田 龍彦様(平成31年1月ご入会)

■「仏教美術にみる動物のすがた」

奈良国立博物館では、この夏、わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」を開催します。仏教美術や原始・古代の祈りの造形に表された動物の魅力を広く紹介する本展覧会に関連して、今回の夏季講座では、動物表現をともしなう仏教美術をテーマに取り上げ、様々な研究分野の第一線でご活躍の先生方をお招きし、ご講演をいただきます。

- 【開催日】 8月21日(水)～23日(金)
 【主催】 奈良国立博物館
 【会場】 奈良春日野国際フォーラム
 薨～I・RA・KA～ 能楽ホール
 (近鉄奈良駅から徒歩約20分)
 ※昨年と会場が異なります。
 【受講料】 3,500円(会場費、テキスト代を含む)
 【定員】 450名
 ※会場の変更に伴い、昨年と異なります。
 【応募方法】 往復はがきまたはホームページ応募フォーム

◆往復はがきの場合

往信用はがきに「夏季講座参加希望」とご記入の上、
 [①氏名 ②ふりがな ③郵便番号 ④住所 ⑤電話番号
 ⑥性別 ⑦年齢]を明記してください。返信用はがきにはご自身の宛名・住所を明記してください。

申込先: 〒630-8213 奈良市登大路町50

奈良国立博物館 学芸部教室

◆ホームページ応募フォームの場合

当館ホームページの夏季講座専用応募フォームから必要事項をご記入の上お申込みください。

- 【受付期間】 5月13日(月)～6月3日(月)必着
 (ホームページは5月13日(月)午前10時～6月3日(月)午後5時)
 *応募はいずれかの方法で、お1人様1回でお願いいたします。
 *受付期間外のお申込みは無効とさせていただきます。
 *応募多数の場合は抽選となります。
 *6月14日(金)までに返信用はがきまたはメールにて受入の可否、及び受講料の振替口座をお知らせいたします。

◆特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展」にて4月13日から6月9日まで展示
 (当館学芸部主任研究員 山口隆介)

色彩に截金を混じえた多彩な文様が目を引く像で、足柄に「巧匠法眼快慶」の墨書がある。壮年期の快慶が制作した東大寺地藏菩薩像に比べて、体軀の量感減じられ、着衣の衣文線を増やすとともに衣縁を装飾的に波打たせるなど、繊細な趣に快慶晩年の作風がうかがえる。かねてより興福寺伝来とされてきたが、明治三十九年(一九〇六)に同寺境内で撮影された仏像写真(興福寺蔵)に本像が確認され、たしかに根拠をもつ伝承であることが明らかとなった。藤田美術館のコレクションのなかでも屈指の美しさを誇る品である。

重要文化財 地藏菩薩立像

快慶作
 像高五八・九
 鎌倉時代(十三世紀)
 大阪 藤田美術館

【表紙写真解説】

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加ください。

■4月21日(日)「仏像の『かざり』をめぐる」

三本 周作(当館学芸部研究員)

ほとけのきらびやかな姿を演出する仏像の「かざり」。普段の拝観ではあまり注目されない「かざり」ですが、実は仏像研究の上でも重要な情報を含んでいることを、いくつかの観点から紹介します。

■5月19日(日)「古代寺院の堂内荘厳」

萩谷 みどり(当館学芸部研究員)

古来、仏堂の内部は、浄土の光景を表現すべく美しく飾られました。なかでも壁画や、柱や天井などの部材に施された彩色に注目し、古代寺院において、堂内がどのように荘厳されていたのかをご紹介します。

■6月16日(日)「古神宝の世界」

清水 健(当館学芸部工芸考古室長)

神社には、古来多種多様な品々が神宝として捧げられました。それらの一部は今日古神宝と称され、大切に守り伝えられています。古神宝の種類や意匠、造形的な特色についてご紹介致します。

■7月21日(日)「再び、空海の舎利信仰の源流について」

一スリランカから東寺まで―

内藤 栄(当館学芸部長)

唐から帰国した空海は日本に新しい舎利信仰をもたらしました。空海の舎利信仰は唐に源あり、と言いたいところですが、さすが唐は国際国家。空海の師匠たちはスリランカに旅し舎利法を学びました。空海の舎利信仰の原点に迫ります。

■8月18日(日)「文化財を科学するVI」

鳥越 俊行(当館学芸部保存修理指導室長)

博物館では、展示に合わせていろいろな調査を実施しています。今回は、「法徳寺の仏像」展で実施した彫刻作品の調査を中心に、最新の成果をお話します。

■9月15日(日)「平安時代の寺社参詣」

斎木 涼子(当館学芸部主任研究員)

平安時代の人々にとって、寺社はどのような存在であったのか。寺社への参詣という行動を通じて、人々の信仰の一端を垣間見ます。

【時間】 各回とも14:00～15:30 (13:30開場)

【会場】 当館講堂

【定員】 各回194名(先着順)

*聴講無料(聴講には入場整理券が必要です)

*当日12:30から当館講堂前にて入場整理券(お1人様につき1枚)を配布します。

*入場受付はトーク開始後30分で終了いたします。

◆「奈良博プレミアムカード」

「国立博物館メンバーズパス」のご案内

平成29年4月より、当館を今まで以上に楽しみいただける「奈良博プレミアムカード」「国立博物館メンバーズパス」を販売しております。

詳しい情報は、当館ホームページをご覧ください。当館観覧券売場へお問い合わせください。



展示品の みどころ

み ろく ほ さつ こう きやく ぞう 弥勒菩薩交脚坐像

銅造 鍍金
総高44.5cm 像高16.7cm
中国 北魏(6世紀)
大阪 藤田美術館



見開いた目にいわゆるアルカイクスミイルを浮かべた面長の顔、長い頸に手足が大きく細身のプロポーション。そして両脚をX字に組んで坐る奇妙な姿勢。体にかかる衣はペーパークラフトのようだ。あらゆる表現が一般的な仏像らしくない。さらに、この像は、一本足の鳥の上に乗っている。この像は何菩薩であろうか。かつて孔雀明王と呼ばれていたという。しかし、この鳥はもともと像本体と別物だったようだ。

三段になった台座には、僧侶、力士らしき人物、亀が取り付けられ、側面には透彫で動物や植物を表している。台座の背面に銘文が陰刻され「大魏神亀元年三月…曲陽…交脚弥勒…」とあり、中国の北魏・神亀元年(518)、現在の河北省曲陽の地域で発願された交脚弥勒像と考えられる。しかし、像本体の柄と台座上面の柄穴は形が合わず、像本体と台座の間に別の部品があったにせよ、像本体と台座が本来一具であったのかはわからない。

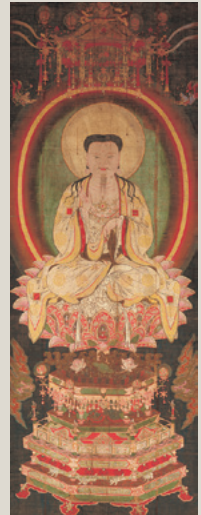
56億7000万年後の未来に、この世に下生するべく兜率天という天上世界に住まう弥勒菩薩は、中国では5世紀から6世紀にかけて、脚をX字に組んだ交脚菩薩の姿で表される。一説に西アジアから中央アジアにかけての地域における王者像のポーズだという。人々は、来世には、弥勒菩薩のいる兜率天に生まれ変わりたいと願って、仏像を造り、思いを託した。仏像らしくないと述べた中国風の強い漢式仏像の典型で、中国・北魏の金銅仏を代表する優品である。

岩井 共二(当館学芸部情報サービス室長)

◆4月13日～6月9日 特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展」にて展示

じ ぞう ほ さつ ぞう ぞう 地藏菩薩像(マニ像)

絹本着色
縦183.3cm 横67.5cm
中国 元～明(14世紀)
大阪 藤田美術館



地藏菩薩の名で伝来するが、実際は中国で描かれた「マニ」の像である。マニはマニ教の祖で、3世紀に古代イランのバルティア帝国下で生まれ教を伝えた。

その教えは唐代には中国へも伝えられ、宋元期には福建などの南方地域を拠点として江南へ広がった。

近年の世界的なマニ教研究の進展に伴い、日本に仏教絵画などとして伝来する中国絵画のなかに、世界的に極めて僅少なマニ教信仰の絵画がいくつも存在することが順次確認され、脚光を浴びている。こうした動向のなか本図についても、昭和12年に雑誌『國華』に掲載されたモノクロ図版から、マニ像であることが指摘されている。

台座の型式など一見して仏教絵画の型式を借用するが、衣の両肩と両膝に表された赤い四角形が最も分かりやすいマニのしるしである。これはセグメンタと呼ばれ、通常はこの四角のなかに顔形を表す。加えて、髪形や手の動き、卵形の光背、衣の色、足先の衣の処理等についても、ほかのマニ像とよく一致する。江南地域でマニ教の礼拝画として描かれた絵画が、何らかの経緯で仏教絵画として日本に伝えられたと考えられる。

カラー図版の公開、藤田美術館外での展示とも今回が初めてのこととなる。

北澤 菜月(当館学芸部主任研究員)

◆4月13日～5月12日 特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展」にて展示

開館日時(4月～6月)

■開館時間／午前9時30分～午後5時

・ただし、金曜日の特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展」は午後7時まで、金・土曜日の名品展は午後8時まで。

※入館は閉館の30分前まで

■休館日／毎週月曜日

・ただし、4月29日(月・祝)、5月6日(月・振休)は開館し、5月7日(火)は休館。

■無料観覧日(名品展のみ)／5月1日(水・祝)、5月18日(土)(国際博物館の日)

※5月1日(水・祝)は、天皇陛下の御即位を慶祝し、名品展は無料でご観覧いただけます。

※特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展」は別途料金が必要となります。

■観覧料金 特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展」

	一 般	高校・大学生	小・中学生
個人(当日)	1,500円	1,000円	500円
団体・前売	1,300円	800円	300円

※団体は20名以上です。 ※前売券の販売は4月12日(金)までです。

※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生の方は当日券を400円でお求めいただけます。

※この料金で、名品展(なら仏像館・青銅器館)も観覧できます。

■観覧料金 名品展・特別陳列

	一 般	大学生	高校生以下
個 人	520円	260円	無料
団 体	410円	210円	無料

※団体は20名以上です。

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生の方は無料です。

※高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は、団体料金を適用します。



●バス停

[交通案内] 近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。